

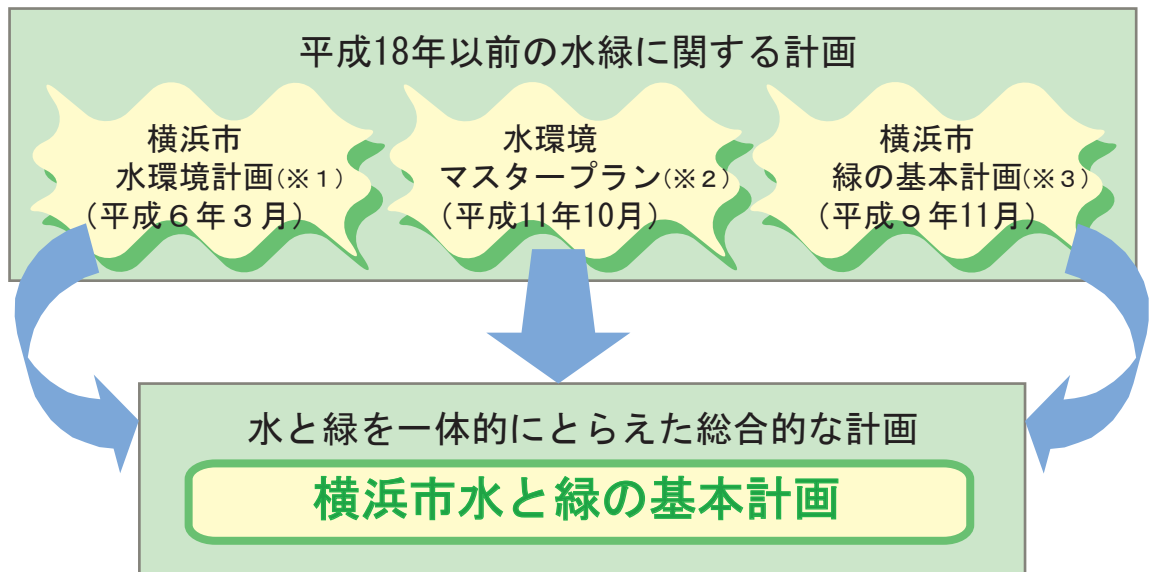
## 1. 横浜市水と緑の基本計画

「横浜市水と緑の基本計画」は、水と緑に関する基本理念と将来像を定め、それを実現するための推進計画や推進施策をまとめた計画として、「横浜市水環境計画」、「水環境マスタープラン」及び「横浜市緑の基本計画」を統合し、2006（平成18）年に策定されました。

横浜らしい魅力ある水と緑をまもり、つくり、育てるために、流域単位で取組をまとめるなど、水と緑を一体的にとらえた総合的な計画であることが、本計画の特徴です。

なお、本計画では河川、水路、海域などの「水」と、樹林地、農地、公園などの「緑」を一体的に扱っていくことから、これらを「水・緑環境」としています。

### ■計画の策定経緯



- ※1 横浜市水環境計画（1994（平成6）年3月）  
横浜市が目指す水環境目標とそれを達成する方策を、発生源対策、生き物の生育・生息環境の保全など6つの視点から提示しています。
- ※2 水環境マスタープラン（1999（平成11）年10月）  
横浜にふさわしい水環境を生み出すための総合的な整備方針です。河川流域毎に、水質向上や水量回復に向けた整備方針を提示しています。
- ※3 横浜市緑の基本計画（1997（平成9）年11月）  
都市緑地法第4条に規定する「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」。緑のオープンスペースの確保（樹林地、農地、公園、緑化）、緑の総量維持のための施策を提示しています。

## 2. 計画の位置付け・目標年次

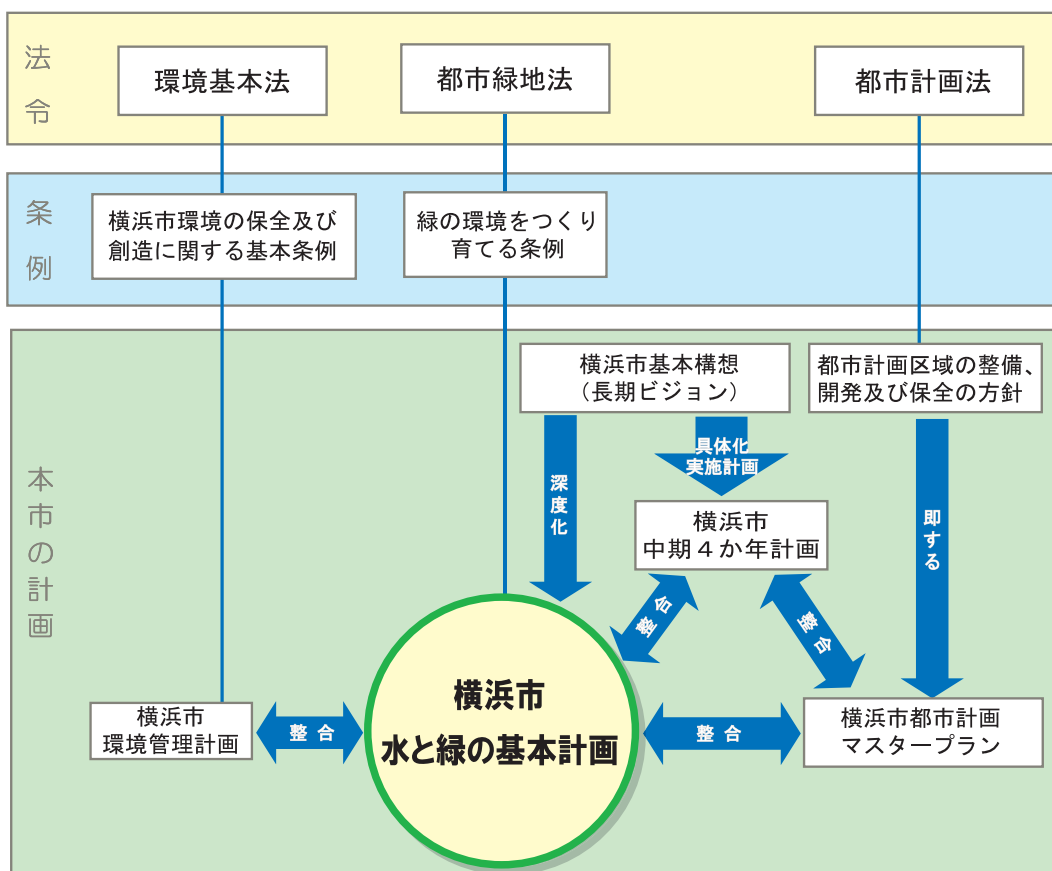
### (1) 計画の位置付け

本計画は、都市緑地法第4条に規定する「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」に位置付けられます。そして、上位計画となる「横浜市基本構想（長期ビジョン）」に示される「都市像」及び「実現の方向性と取組」を踏まえた、水・緑環境の保全・創造・育成に関わる総合的な計画です。

また、「横浜市中期4か年計画」や「横浜市環境管理計画」、「横浜市都市計画マスタープラン」と整合を図り、「生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）」、「横浜市下水道中期経営計画」などに関連する計画です。

さらに、本計画に基づく取組として、「横浜みどりアップ計画」及び「横浜都市農業推進プラン」があります。

#### ■計画の位置付け・関連計画



「横浜市水と緑の基本計画」に基づく取組：横浜みどりアップ計画、横浜都市農業推進プラン  
 その他関連する法令：水循環基本法、都市農業振興基本法、下水道法、水質汚濁防止法、都市公園法 など  
 その他関連する計画：横浜市下水道中期経営計画、生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)、  
 横浜市都心臨海部再生マスタープラン、横浜市地球温暖化対策実行計画 など

## (2) 目標年次

本計画の目標年次は、「横浜市基本構想（長期ビジョン）」の目標年次である2025（平成37）年とし、長期的な視点から水・緑環境の保全・創造・育成に取り組むこととします。

また、概ね5年ごとに水・緑環境の現況を把握するとともに、施策の進捗などを点検し、必要に応じて計画を見直します。

## 3. 計画の改定

本市ではこれまでも、「横浜みどりアップ計画」や「横浜都市農業推進プラン」、「生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）」、「横浜市下水道中期経営計画」など、個別分野の計画も策定し、施策を展開してきました。一方で本計画策定以降の社会状況に目を向けると、地球温暖化が進んでいることや、地震・豪雨・台風などへの防災・減災対策がより重要となっていること、少子高齢化が一層進んでいることなど、社会状況は変化しています。

また、成熟社会を迎え、市民のライフスタイルや価値観も多様化しており、水・緑環境と市民との関わりも広がっています。

2014（平成26）年には「横浜市中期4か年計画2014-2017」を策定し、未来のまちづくり戦略に「あらゆる人が力を発揮できるまちづくり」、「横浜の経済的発展とエネルギー循環都市の実現」、「魅力と活力あふれる都市の再生」及び「未来を支える強靱な都市づくり」を位置付け、誰もが安心と希望を実感でき、『人も企業も輝く横浜』の実現を目指しています。

さらに2017（平成29）年には、本市で全国都市緑化よこはまフェアが開催されます。フェアの開催は水・緑環境と市民との関わりをより深め、緑豊かな美しいまちづくりを進める絶好の機会といえます。

以上のような状況を踏まえ、計画策定からおおよそ10年が経つことを契機に、水・緑環境の目標像を改めて明確にするとともに、計画内容の見直しを行いました。

